

認知症高齢者への接し方

認知症が進行すると、日常生活動作が困難になったり、言葉で自分の意思を表すことができなくなったりするため、「認知症の人は何も分からない、できない」と思いがちですが、それは間違いです。認知症であっても、適切ななかかわりによって心身の力が引き出されること、感情やその人らしさは終末期まで豊かに残っていることが近年の研究から明らかにされています。

やさしく
接する

よく話を
聞く

目を見て
話しかける

笑顔で
うなづく

相手の
ペースに
合わせて
ゆっくり

このようなかかわり方が大切です

怒らない、
否定しない

説得は
避ける

役割が
果たせるよう
支援する

認知症の人が安心して暮らせるまちづくりをすすめてみましょう

認知症は誰にでも起こりうるもので、年齢を重ねるごとに発症の可能性が高くなります。認知症を自分のこととして考え、お互いに支えあえる社会にしていきましょう。

地域で認知症の人が困っている様子が見えたら、「何かお手伝いする事がありますか？」と声をかけてみましょう。あなたが理解者であることが伝わります。家族には介護の大変さを理解してねぎらいの言葉をかけましょう。